

資料 3

～次期目標設定について～

➤ 目標は具体の取り組みを検討するにあたり必要不可欠

令和4年度に、日常が戻ることを前提として具体の取り組みを検討

【参考】前年度からの社会情勢の変化

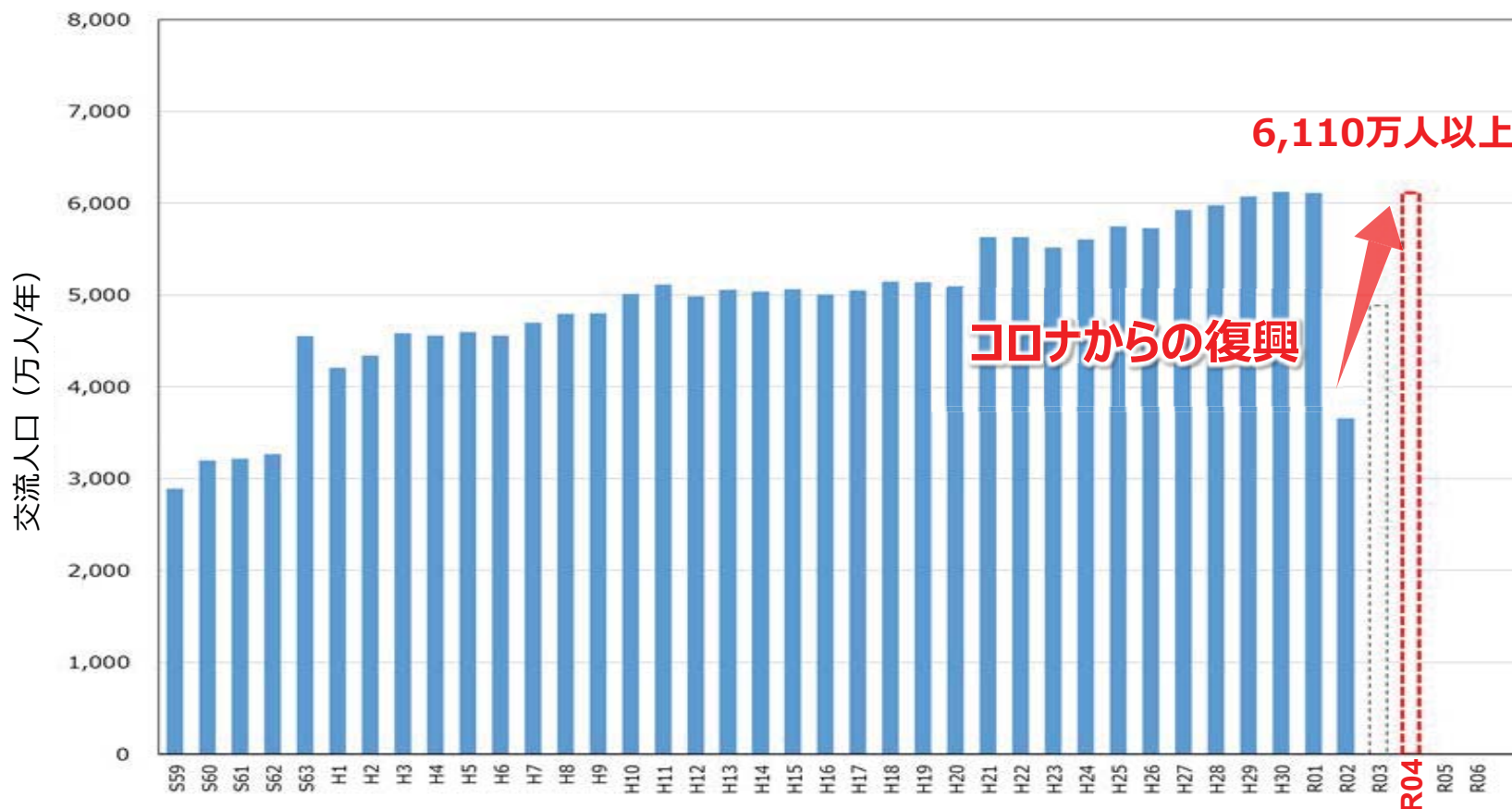
「10月から11月の早い時期に希望者全員のワクチン接種が完了する」
「接種証明や陰性証明を活用し、制限を緩和していく。飲食、イベント、
旅行など社会・経済活動の正常化に道筋を付けていく」
(令和3年9月9日首相発言)

◆ 新型コロナウイルス感染拡大による“交流”への影響

- 令和2年度の本州四国間交流人口は、令和元年度の61百万人から**約4割減少**し、37百万人
- 令和2年度の本四高速交通量は、令和元年度の56,867台/日から**約2.5割減少**し、42,479台/日

短期目標

まずは、**コロナからの「観光需要の復興」**を目指し、**令和4年度までに令和元年度の交流状況以上に復興**させる。



◆ 新たに目標とする“**目標年次**”について

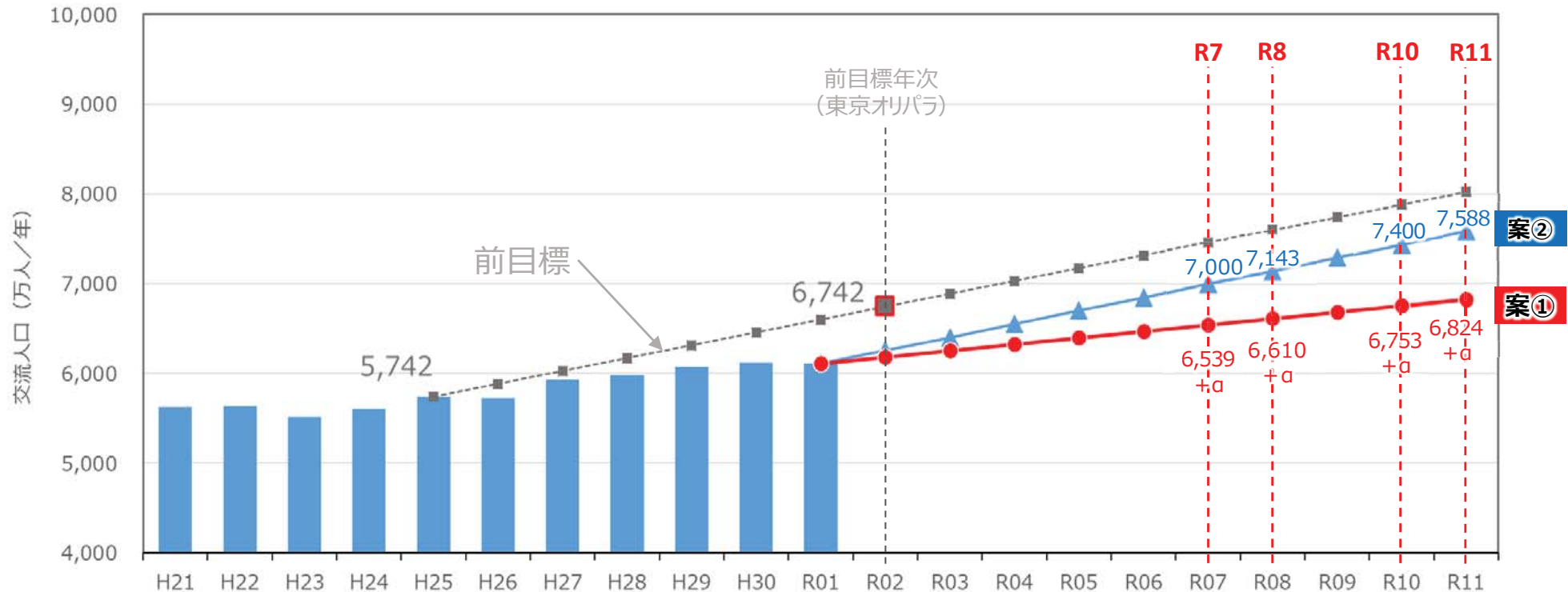
目標年次	設定理由
令和7年度 (2025年)	大規模国際イベントである 大阪・関西万博 が開催される 令和7年度 を目標年次とする。
令和8年度 (2026年)	今から5年後 となる 令和8年度 を目標年次とする。
令和10年度 (2028年)	現行料金水準期限の5年後であり、かつ瀬戸中央道開通40周年、神戸淡路鳴門道全通30周年が重なる令和10年度 を目標年次とする。
令和11年度 (2029年)	しまなみ海道開通30周年 となる 令和11年度 を目標年次とする。

【参考】 今後10年間の大規模イベント等

年度	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10	R11	R12
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
	現在	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後
大規模イベント等	<ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピック・パラリンピック 	<ul style="list-style-type: none"> 世界水泳選手権(福岡) ワールドマスターズゲームズ(関西) 	<p style="color: red;">現行料金水準期限</p>		<ul style="list-style-type: none"> 大阪・関西万博 	<ul style="list-style-type: none"> アジア競技大会(愛知) 	<ul style="list-style-type: none"> リニア中央新幹線開業予定(品川〜名古屋) 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸中央道開通40周年 神戸淡路鳴門道全通30周年 	<ul style="list-style-type: none"> しまなみ海道開通30周年 	

◆ 新たに目標とする“目標値”について

	指標	目標値の設定方法	説明
案①	交流人口	実績増加率 + a で設定	目標が高すぎる場合、形骸化しPDCAも機能しないため、 実績ベースの伸び率（61万人） + a（努力目標） で設定。
案②	交流人口	前目標値の増加率で設定	前目標の増加率（年143万人） と同水準に設定。
案③	交流人口	前目標値に『再チャレンジ』	これまでの目標「H25比 交流人口1,000万人増 」の到達点は 変更しない 。
案④	自動車交通量	交流人口から交通量に変更	R2協議会の議論を踏まえ、 目標値を交流人口から交通量に変更 。

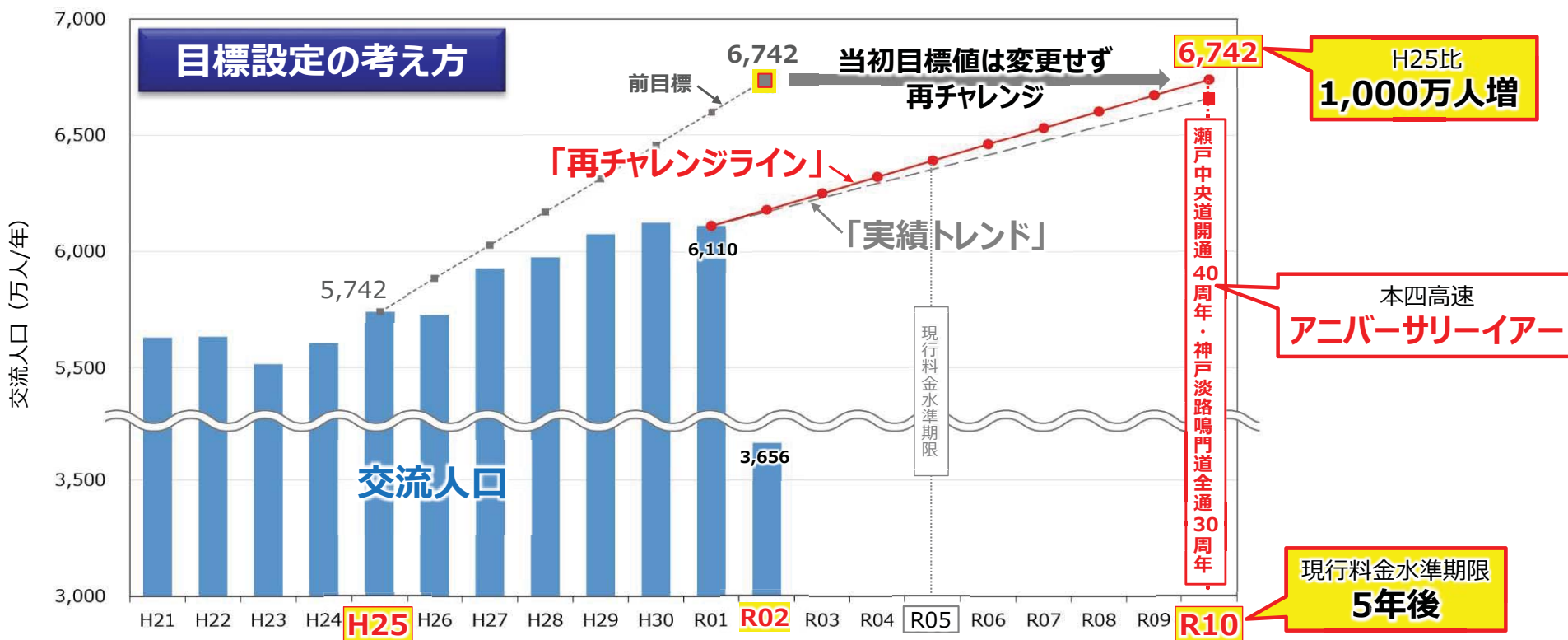


目標設定に向けた方向性

- ◆ 目標の到達点は、下方修正しない。
- ◆ 現実的な目標としPDCAが機能する目標値とすることが重要。
- ◆ 前回協議会での議論を踏まえ「道路に軸足を置く」。

基本方針

- ◆ 当初目標値は変更せず、H25比 1,000万人増に再チャレンジ。(案③)
- ◆ PDCAを機能させるため、実績トレンドと大きく乖離しない目標値を設定(案①)
- ◆ 現行料金水準期限5年後で、かつ瀬戸中央道開通40周年、神戸淡路鳴門道全通30周年と重なる令和10年度を目標年次とする。
- ◆ 「道路に軸足を置く」視点から、目標とする交流人口に併せて交通量も設定



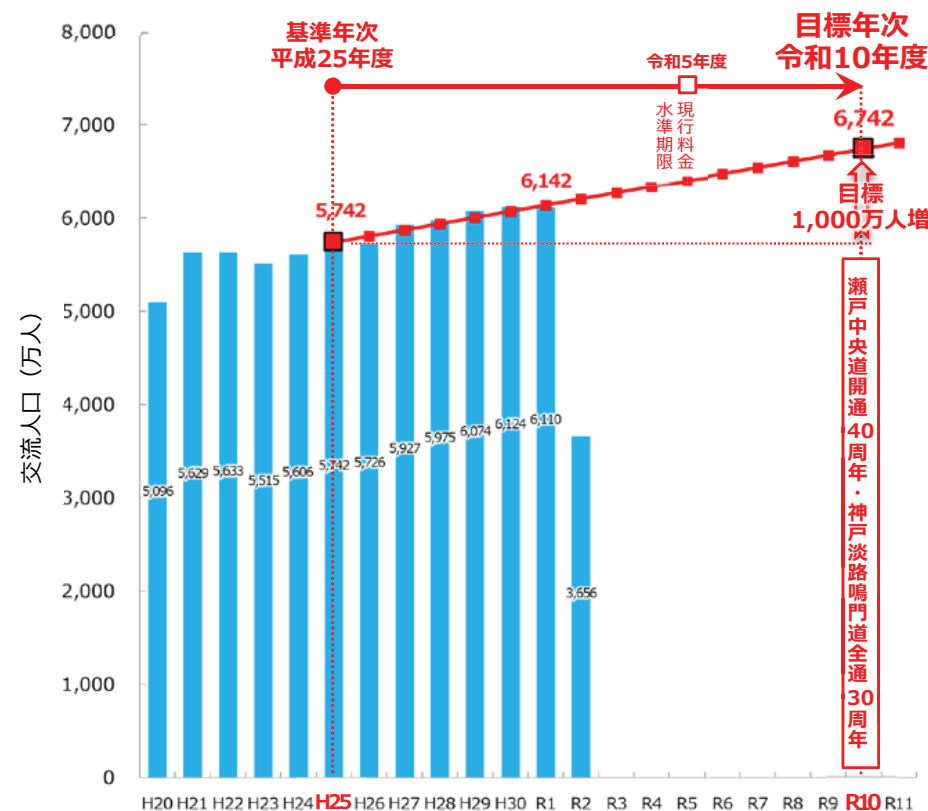
「環瀬戸内海地域交流促進協議会」次期目標（案）

【短期目標】

コロナからの「観光需要の復興」を目指し、
令和4年度までに令和元年度の交流状況（R1:6,110万人）
以上に復興させる。

【中期目標】

現行料金水準期限の5年後で、
 かつ瀬戸中央道開通40周年、神戸
 淡路鳴門道全通30周年が重なる
令和10年度を目標年次とし、
交流人口 H25比 1,000万人増を
 目指し『再チャレンジ』



また、上記目標に相当する、本四高速の日平均交通量※ **61,000台/日**を併せ目標とする。

※ 前目標の基準年（H25）から令和元年までの交流人口・本四高速交通量比0.331から換算